

教育グループ2

平成 30年度 第 4回

議事録

【年間テーマ 身体拘束】

身体拘束廃止に向けた方法や
対応を倫理的に考えよう

平成 30年 11月 29日 提出

日付	平成 30年 11月 17日 (土)			
場所	天神福岡ビル		記録者名: 千年原 栞美恵	
出席者	和歌山病院 松岡 品子	香雅原病院 大坪 史弥	北九州八幡東病院 千年原 栞美恵	丸山病院 増田 有江
(敬称略)	福岡和仁病院 山崎 輝英	有吾病院 吉田 信代	新小倉病院 中村 美里	東福岡和仁会病院 坂本 礼子
テーマ	身体拘束の基準について。			
結論	ミト、拘束帯、車いす、つばきなどの使用は、“拘束”としている所が多いが、リフト、ベッドなどは、“拘束”とみなしてはいけない所とされている所と、施設によって異なる。T-スールの代替、負荷の軽減としての使用。否かの判断基準は難しく、患者さんに合わせて、使用検討していかなければならない。			
決定事項	身体拘束廃止に向けて、方法や対応を倫理的に考えようが必要である。			
備考	ミト=使用者のゼロの状態は、次の取り組みに向け考えようと思われた。			
次回討論項目	1 困難事例などを交え、倫理的な観点から考えよう。			

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス info@famcf.jp

(FAX.092-691-3961)